

みなさんこんにちは。9 月に入り、少しずつ暑さも和らいできた頃かと思いますが、お変わりありませんか。すでにご存じの方もいらっしゃいますが、私は 2015 年 7 月 7 日より、青年海外協力隊・青少年活動隊員として、アフリカ・マラウイに派遣されています。

早いもので、現地の到着し約 2 か月が過ぎようとしています。

毎日道を歩けば「チャンチュン！」と中国人に間違えられ、子供たちには「アズング、ポーッ！（黒人以外の人種すべてを指して白人、ポーッはマラウイ風 hi!）」と声をかけられ、日本との文化や感覚の違いに驚かされ、時にはあまりに楽観的なマラウイアンに苦笑いしながらも、おかげさまで元気に過ごしています。

マラウイは南部アフリカに位置しており、現在は初春で、日に日に暖かくなってきています。気温は 15-25 度前後なので、とても過ごしやすいです。アフリカにも冬があることを、マラウイに来て初めて知りました。

今後、日本でお世話になっていたみなさんに、ニュースレターという形で、私の活動や現地の様子・情報をお届けできればと考えておりますので、お時間ある際にぜひ目を通していただければ幸いです。

◎マラウイ基本情報



国名: マラウイ共和国

別名: Warm Heart of Africa

人口: 1,526 万人(人口増加率 3%/年)

言語: チェワ語、英語(準公用語)

地理: アフリカ南東部(ザンビア、ジンバブエ、モザンビーク、タンザニアと隣接)

面積: 11,8484 km²(北海道と九州を合わせた大きさ)

気候: 温暖冬季少雨気候

主な産業: 農業(人口の約 80%)

名産品: タバコ、茶、砂糖、コーヒー

GDP: \$222/人(世界最下位 by IMF)

国家歳入: 2000 億円弱(40%がドナーによる援助)

◎今月の活動

はじめの 1 か月は任地での活動の準備期間として、首都にある JICA ドミトリーに滞在し、JICA 事務所で現地オリエンテーションや予防接種、マラウイの共通語であるチェワ語の訓練を受けました。第 3 週目には、カントリーツアーといって、自分の任地に行き、配属先のカウンターパート(隊員のパートナーとなり活動をサポートしてくれる方)や同僚の先生方、大家さんに挨拶をしたり、先輩隊員に街の様子を案内してもらったりする機会がありました。

私の任地ムチンジ(Mchinji)は首都から西に 115km 離れたザンビアとの国境を接する街で、首都リロングウェからは、車で幹線道路を約 1 時間半走ったところにあります。大きな街ではありませんが、子どもが多く、とても活気があります。



* 首都リロングウェの音楽学校で子供たちと



* マラウイの主食シマ(nsima)とビーフ



* キチ、アフリカニア、み、3 か月

街の真ん中には大きなマーケットがあり、ここで生活に必要なものは一通り揃います。

8 月 18 日からはいよいよ任地に赴任し、はじめの週は何もないところから新しい生活をスタートさせるための準備を、2 週目からは配属先の Mchinji 教師研修センターに毎日通い、少しずつ活動を開始しています。

日本のような一人暮らし用のアパートはありませんので、一軒家に住んでいます。ベッドルームが 3 つもある私には大きすぎる家で、はじめのころは少し心細かったです。家には水道も電気も通っていますが、毎日停電と断水続きで 1 日に 2-3 時間しか電気・水道共に使えません。夜、七輪でバケツのお湯を沸かしてシャワーを浴びるのが日課となっています。

マライに来て、子どものころからの夢だった「犬を飼う」が叶いました！先輩隊員から子犬をいただき、「キチ」とともに新しい生活を頑張っています^^

◎私の要請内容

職種: 青少年活動

配属先: 教育・科学・技術省、ムチンジ教師研修センター

活動内容:

・教師研修センター付属の小学校で担当教師とチームティーチング

で表現芸術の授業を行う。

・表現芸術科目に関するクラブ活動を担当教師と共に運営する。

・地区内の小学校を巡回し、表現芸術に関する必要な支援・助言を行う。

* 配属先に併設している kamuzu 小学校

・他の教師研修センターに配属されている隊員と情報共有やアイデアの蓄積を行い、表現芸術向上に向けた連携活動。

現状: マラウイでは、2006年に音楽・裁縫・図工・体育・ダンス・演劇が1つの教科として「表現芸術科目」に統合された。しかしながら、同教科に関する知識や指導経験が不足している教師が多く、授業が積極的に行われていない状況にある。



◎らんのつぶやき

洗濯機がないので桶で手洗い、電気がないときは七輪で火をおこして料理をしています。先日、隣の家のお母さん（私と2歳しか変わらない）に、「炭は触れるの？ハウスキーパーは雇わなくていいの？」と聞かれました。同期隊員もよく同じことを言われると言っていて、便利な日本に暮らす私たちより、アフリカの人たちの方がよほど遅く生活していて、学ぶことが多いなぁと考えさせられる日々です！